

はしかわ市長の **だいすき!くさつ**



災害への心構えを高めましょう

先月は、静岡県をはじめ、全国各地で豪雨による甚大な被害が発生しました。お亡くなりになられた方に、心よりお悔やみ申し上げますとともに、被災された方にお見舞い申し上げます。

国では、大きな被害を出した令和元(2019)年の台風19号の教訓をもとに、災害対策基本法を改正し、それまでの「避難勧告等に関するガイドライン」を名称も含め改定し、「避難情報に関するガイドライン」として5月に公表しました。台風19号の際には、東日本を中心に広い範囲で記録的な大雨となり、全国各地で140カ所を超える堤防決壊や、900カ所を超える土砂災害が発生するなど、甚大な被害が相次ぎました。被害の検証では、避難勧告などが発令されていたものの、避難をしなかったことや、避難が遅れたことによる被災、豪雨・浸水時の屋外移動中の被災、また高齢者などの被災が多くみられ、行政による避難情報が分かりにくいとの課題がありました。これを受け、ガイドラインでは、「避難勧告」と「避難指示緊急」が「避難指示」に一本化されました。(詳しくは、4〜7ページ)

6月に広報紙と一緒に配布しました「草津市洪水・内水ハザードマップ」も「確認いただき、日頃からの災害に対する備えとともに、いざという時の避難について、確認をしておいてください。」

新型コロナウイルス感染症のワクチン接種につきましては、65歳以上の希望者の接種をほぼ完了しました。先月7日には16歳から64歳までの接種券を発送し、重症化リスクを考慮し、基礎疾患のある方や高齢者施設の従事者、年齢層の高い方から予約を順次開始しています。市からの接種券は、大規模接種会場や職域接種会場でも使用いただけます。しかし、7月以降の国から市へのワクチン配分が少なく、限定的な供給となったため、接種計画を見直しせざるを得ない状況となり、市役所と近江草津徳洲会病院での集団接種会場の予約枠数の縮減や、64歳以下の方の地域の医療機関での個別接種の新規受付を休止しています。今後国から安定的にワクチンが供給されるようになりましたら、接種が加速できるよう進めてまいりますので、ご理解をお願いいたします。(詳しくは8ページをご覧ください)

広がれ!はッピー・ぼうさい



第5回

問 危機管理課(1階) ☎561-2325、☎561-6852

草津の防災力、どんどん高めていきましょう

関西大学 社会安全学部 近藤ゼミ

えふえむ草津でお届けしている防災の番組シリーズ「Happy BOUSAI」。プロジェクトメンバーの学生の中には沖縄県の出身者がいますが、沖縄といえば、そうぞう、台風の常襲地です。その分、私たちからすれば、台風対策の「先達」といえるかもしれません。近年は、気象が「極端化」してきており、関西を通過する台風の勢力も強まっています。先達の知恵に学ぶという構えが、いよいよ現実味を帯びてきました。

沖縄では、台風通過時に何らかの被害が出ることは「当たり前」のこととして、基本的な備えを進めている人が多いそうです。庭先の落下物・転倒物の片付けや、窓ガラスの飛散防止を行うこと、そして何より大切なのが停電対策です。発電機・蓄電器、ランタン、懐中電灯、そしてラジオなどを常備する。さらに、マンションなどでは水道も出なくなりますから、飲料水の準備も必要です。夏場の熱中症対策を併せて考えるなら、水分と塩分、ミネラルを摂取できる経口補水液などを、家庭でも準備しておくとも良いかもしれませんね。

ところで、毎年台風を経験している沖縄の皆さんで

さえも、昨年9月、「驚くべき事態」が起きました。それは、台風が通過する前に地元のスーパーが閉まったということです。もう少し詳しく説明しますと、台風などを理由にして臨時休業することなど「これまで一度もなかった!」あのスーパーでさえも、リスクを勘案して営業をストップしたことがきっかけとなり、県民の警戒感が一気に高まったそうです。もちろん、行政からも早期警戒が呼びかけられていました。しかしそれでも、公的な情報だけではピンとこない人もいますよね。そうした中で、その土地ならではの独自の情報(ここでは、「スーパーが閉まった」というニュース)が、「心のスイッチ」を押してくれたわけです。このような沖縄のユーモラスな知恵は、過去の経験にあぐらをかいては不十分だということを、私たちに教えてくれています。ぜひ皆で、気象災害に対する感受性を高めていきましょう。

Happy BOUSAI ラジオえふえむ草津 (FM78.5MHz) 第1・3火曜日12:00~



差別のない明るいまちに

問 人権センター(大路二、キラリエ草津内) ☎563-1177、☎563-7070

コラム COLUMN

「お母さん、SDGsって知ってる?」~わが家に生まれた共通の言葉『SDGs』~

「地球(社会)は今どのような状況なのかを知る」

「お母さん、SDGsって知ってる?」「知ってるよ。どうして?」「学校で勉強してるんだよ」わが子は学校でSDGsの目標のうち、「14.海の豊かさを守ろう」について調べていることでした。



ぼくたちはまず、海やびわ湖が今どうなっているか調べたんだよ。プラスチックごみなどのえいぎょうで、よごれていることがわかった。このままでは海の生き物が死んでしまう。そうなるよ、ぼくたちの食べ物にもえいぎょうがで、ぼくたちも住み続けられなくなるんだ。

「自分たちができること」を考える

わが子は学習の続きを話してくれました。「世界中の国が話し合い、2030年までに17の目標を達成しよう」と決めたんだよ。その目標を『SDGs』っていうんだよ。ぼくたちができることは、海をよごさないためにゴミをへらすこと。そのため、マイバッグで買い物に行くことも、できることのひとつなんだよ」

さまざまなところで進められる取り組み

貧困、不平等、環境問題など、人類が直面する課題を解決するため、2015年、国連は全ての加盟国の合意でSDGs「持続可能な開発目標」を立てました。現在、学校だけでなく、企業や地域などでさまざまに取り組みが進められています。

例えば県内の企業では、廃棄物を貴重な資源として生かし、持続可能な循環型経済の構築をめざしている



所があります。「廃プラスチックの資源活用をおし地球を再生すること」を企業の使命とし、開発を続けています。

基盤にある人権の尊重

17の目標は関連し合っています。先程の企業のように「廃プラスチックの資源活用」は、「14.海の豊かさを守ろう」だけでなく、それが企業の使命として、社員の意欲につながることで、「8.働きがいも経済成長も」につながります。さらに、同じ目標に向けて取

り組む学校や他の組織との連携が生まれることで、お互いが高まり、「17.パートナーシップで目標を達成しよう」という気運が生まれます。

SDGsは「一人ひとりの人権の尊重」を共通の基盤としています。持続可能な社会の実現をめざしているともいえます。



将来わが子も一人の人間として尊重されると共に、相手も一人の人間として尊重してほしい。子どもの学習をとおして、わが家の共通の言葉となったSDGs。これを機会に改めて社会に目を向け、身の回りの不合理から解決していきたくて考えるようになりました。

このお母さんの言葉から私たちも考え、行動したいものです。

※SDGs[Sustainable Development Goals]の略

原爆死没者の慰霊と平和の祈り

昭和20年8月6日午前8時15分に広島、9日午前11時2分に長崎へ、原子爆弾が投下されました。亡くなった人のご冥福と恒久平和を祈念し、それぞれの時刻に、1分間の黙とうをお願いします。

問 人権政策課(6階) ☎561-2335、☎561-2488

